

## 革命の三つの社会主義的な仕事

これまでに十分になしとげられたことと言え、わが国の革命のブルジョア民主主義的な仕事だけである。そしてそれをほこるもっとも正当な権利を、われわれは持っている。革命のプロレタリア的あるいは社会主義的な仕事は、三つのおもな種類に帰着する。すなわち、(一) 帝国主義的な世界戦争からの革命的脱出。資本主義的略奪者の二つの世界グループの殺戮<sup>さつりく</sup>を暴露し、失敗させること。これは、われわれとしては、十分にやりとげている。しかしこれを、全面的にやりとげることができるのは、ただ一連の先進国における革命だけであろう。(二) ソヴェト体制、すなわちプロレタリアートの独裁の実現形態をつくりだすこと。世界的な急転換が生じた。ブルジョア民主主義的議会制度の時代はおわった。世界史の新しい章が、プロレタリア独裁の時代が、はじまった。ソヴェト体制とプロレタリア独裁のあらゆる形態とは、一連の国々によってはじめてつくりあげられ、完成されるものである。わが国では、この分野で完成していないものが、まだきわめて多い。それがわからないのは、ゆるせないことである。われわれは、まだ一度ならず完成し、つくりかえ、最初からやりはじめなければならないであろう。生産力と文化との発展で、われわれが一段一段と首尾よく前進し、たかまるたびに、それに伴ってわがソヴェト体制を完成させ改造していかなければならない。しかし、われわれは、経済的に、また文化的に、非常に低いところにある。改造すべき多くのことに当面している。しかしそれに「たじろぐ」ようでは、愚の骨頂であろう（ばか以上に悪くはないにしても）。(三) 社会主義制度の経済的基礎の建設。この分野では、もっとも重要なもの、もっとも根本的なものが、まだ完成されていない。だが、これは——原則的な見地からしても、実際的な見地からしても、現在のロシア社会主義連邦ソヴェト共和国の見地からしても、また国際的な見地からしても——われわれのもっとも確実な基礎なのである。

第33巻『現在と社会主義の完全な勝利ののちの金の意義について』P102～103

『プラウダ』第251号、1921年11月6～7日

## コメント

この中で、ソヴェト体制が完成されたものでない点が強調されている。